

## 林英輔先生と TRAIN

中山 雅哉

東京大学 情報基盤センター 准教授

TRAIN<sup>1</sup>は1992年3月に林先生が当時在籍されていた山梨大学が東京大学につながることで運用が始まり、同12月に正式に発足した地域アカデミックネットワークです。

TRAINの構想については、1991年11月25日に行われた「学内LANとインターネットキングの展開」研究会にて紹介がありました。この研究会では、WIDEやTISN、JAINなどの広域ネットワークの活動や各地の地域ネットワークの活動、東京大学のUTnetの構築に関する紹介に加え、学術情報センター(現NII)からSINET<sup>2</sup>というネットワーク構築を始めるという話もされました。当時、私は豊橋技術科学大学に在籍していましたので、東海地域の活動に関する発表者として参加していました。研究会の終了時に、「TRAINへの参加を検討している大学は集まる様に」との呼びかけに対して、非常に多くの人が集まってきたことを今でも覚えています。当時、関東地域の方々の方々のアクティビティが非常に高いと感心しましたが、私は、その翌年に東京に移ることになりTRAINの運営にも関わることになりました。

当初、TRAINを運営するにあたり、ベンダー4社より東大側に設置するルーターの提供を受けることになりました。対向側の各大学はルーターを用意し、専用回線を借りた上で東大の対向ルーターに接続してもらうことで組織間の相互接続を行うことになりました。ルーターの機器自体は、企業から無償提供を受けていましたが、その後の保守費等は参加組織に「共通経費」として支出いただく形が取られました。この支払い方法に関しては林先生を中心とした委員会で議論を行い、国立大学は東京大学に移算していただき、私立大学等は、毎年当番校を定めて、当番校に各私立大学等からお金を納めてもらう方法をとっていました。

しかし、TRAINへの参加組織が増えてくるにつれ、ネットワークの通信トラフィックが設備以上に増大しはじめる問題が生じるよ

うになりました。商用のISPも多くなってきた時期だったこともあり、1999年3月31日をもってTRAINを解散し運用を停止することになりましたが、各参加校には、各組織の意思でSINETか商用のネットワークのどこにつなぎ直すか検討してもらうようお願いすることになりました。

これは、林先生のご英断でした。林先生は、基本的に、自律分散のシステムを動かすことが重要であるとお考えでしたので、この時も、各大学が意思決定をするものであり、TRAIN全体の決定に従ってくださいということにはしたくないとおっしゃっていました。そのため、私は学術情報センターの方と各大学に説明に回りました。

また、TRAINの解散後、TRAINが存在した証を残しておきたいということで、「東京地域アカデミックネットワークのあゆみ TRAIN活動報告書<sup>3</sup>」の編纂を行いました。

この報告書の冒頭に林先生が書かれた文章を紹介します。

『かつて我が国にインターネットが普及しはじめた初期、TRAINという名の学術系地域ネットワークがあった。それは、当時の大学にインターネットの安定した利用環境をもたらすのに貢献し、7年間活動すると、活動を止め、組織を解散した。その活動の痕跡は何も残っていない。ただ、当時そのネットワークの構築や運用に携わった人が残っていて、未だにネットワークをやっている。間もなくこんなふうに語られることになるだろうと思います。』<sup>4</sup>

当時から今の時代を見越しておられたと痛感しています。

このように、TRAINは、地域ネットワークの中では、始まりから終わりまでの活動記録や報告書がすべて残っている非常にまれな組織となりました。その意味でも、林先生のご功績は非常に大きいものだと思います。

また、TRAINの活動の中でも、林先生は

3 <http://a-train.gssm.musashi.ac.jp/TRAIN/index.htm>

4 「東京地域アカデミックネットワークのあゆみ—TRAIN活動報告書」(TRAIN協会、2000年3月)

1 <http://a-train.gssm.musashi.ac.jp/>

2 <http://www.sinet.ad.jp/>

初等中等機関（小中高校）におけるインターネットの利用に関しても強く感心を寄せられていました。山梨大学附属小学校の接続や100校プロジェクトの受け入れの際には、当時のSINETのAUP<sup>5</sup>が、学術研究を目的とする利用に限るとしていたこともあり、大学の研究機関がその利用に関して責任を負うこととしてTRAINへの参加を承認することにしていました。特にTRAINは、SINETにもWIDE<sup>6</sup>にも相互接続していましたが、商用との通信が発生した場合はWIDEを介して通信されており、SINETには研究目的以外のトラフィックは流れない形での運用を行っていました。

100校プロジェクトの終了後、学校教育ネットワークは、地方自治体が所轄するネットワークへと移行される形になってきました。そのうちの 하나가、柏市の教育ネットワークです。山梨大学を退官して麗澤大学に移られた林先生は、麗澤大学を中心として柏市のネットワークをKIU<sup>7</sup>につなげる体制を作りました。現在はKIUも解散し、柏市の学校教育ネットワークへと移りましたが、学校教育ネットワークの立ち上げ時には、学校内のLAN整備を行う「Net Day」活動を含めて、色々な活動を推進してこられました。

今後もTRAINに関わってきた我々は、ネットワークに携わる活動を続けていくことになるかと思いますが、林先生にいつまでも見守っていただきたいと思っています。

---

5 ネットワークを利用する際の利用目的を制限する規則

6 <http://www.wide.ad.jp/>

7 柏インターネットユニオン